



たちあらい

議会だより

No. 131

平成23年8月19日発行

■発行
大刀洗町議会
■編集
議会報発行特別委員会

〒830-1298 福岡県三井郡大刀洗町大字富多819

TEL (0942) 77-4112



はやく はやく！（大堰・たんぽりんピック・6月25日）

議案	P 2
各校区の地域づくり	P 3
一般質問	P 4
町民の声	P 8

この議会だよりは再生紙を使用しております。

6月議会

今年も

商工会の商品券に補助

プレミアム分を420万円

補正予算

一般会計

2177万円を追加し、52億2403万円とする。

主な増額分

○校区センター運営費 825万円

○商工会プレミアム付き商品券補助 420万円

○少人数学級対策費 105万円

特別会計

○国保会計

111万円を増額し16億9486万円とする。

○診療所会計

24万円を増額し1億758万円とする。

○下水道事業会計

680万円を減額し6億8255万円とする。



今年もプレミアム商品券を実施する

補正予算はいずれも全会一致で可決した。

条例の改正

専決処分の承認

全会一致で可決。

○国民健康保険税の一部改正

賦課限度額を引き上げる。賛成多数(8対2)で承認

○予防接種健康被害調査委員会条例の改正

組織の変更によるもの。全会一致で可決。

条例

○税条例の改正

- ・東日本大震災被災者等の負担軽減をはかる。
- ・住宅等に係る損失の雑損控除
- ・住宅ローン減税等の特別措置などを改正。

人事

○教育委員会委員の任命



スミス美紀氏(新任)

任期は23年8月8日より4年間。全会一致で同意。

○人権擁護委員の推薦



青木信子(再任)

任期は23年10月1日より3年間。全会一致で同意。

22年6月に企画会議を設置し、9月に一般公募で地域づくり会議（11名）を立ち上げました。両者合同でワークショップを5回実施し、23年2月に地域づくり講演会（60人参加）を実施しました。4月から健康とふれあいをテーマに、ふれあいセンター北側にウォーキングコース（1・2・3km）を作りました。

7月23日（土）6時30分開始で「ウォーキングコース開き」を実施。170人の参加があり、ラジオ体操の後、好きなコースを歩き、婦人会手作りの朝ごはんを食べました。

毎朝8時30分からセンター前でラジオ体操をしています。ラジオ体操やウォーキングを楽しむ人が増えることを願っています。



大刀洗校区では、まず地域づくり計画の策定を目指しています。前年度に、そのための実行委員会を設置し、行政区アンケート調査、ワークショップ、研修などを行い、現在、全戸アンケート調査を実施中です。少子高齢化に伴う問題、河川改修問題、農業問題、環境問題、地域活動など幅広く問題提起されています。今後は、問題点を分析し、計画策定後に、一つのモデル的な事業に取り組む予定です。



本郷校区

大刀洗校区

地域づくりの
取り組み

菊池校区

大堰校区



企画委員会を設置し、校区の方々に地域づくりワークショップの参加を呼びかけました。

数回実施し、自然、伝統、歴史、憩いの場、交通など、多くの意見の中から、大堰の自然を活かした「ホテルの里づくり」を選択。4月より先進地の視察研修を重ね、現在、大堰交流センターでホテルの飼育に取り組んでいます。7月早々には幼虫が誕生し、部会員は楽しい思いで飼育に励んでいます。

来年初夏には各行政区でホテルの放流が実現できるよう、多くの皆さんのご協力をお願いします。

就業改善センター管理運営委員会では6月に総会を行いました。

本年度より事業推進をより効果的に行うため、企画検討委員会（10人以内）の設置と、事業を円滑に実施するために（1）夏まつり実行委員会（2）体育行事実行委員会を設置しました。

また、特徴的取り組みとして、地域づくり、活性化のために、センターの空き時間帯（午後1時〜5時）を利用して無料開放し、第1・3土曜日は卓球（ピンポン）の日、第2・4土曜日はカラオケ（歌唄）の日として、みんなで仲良く、知り合い、語らい楽しむ広場を開設しています。



を政問
町問



一般質問

この原稿は、質問者本人の責任で質問内容を要約したものです。
一般質問の全文(議事録)は、議会事務局、または各校区センターで閲覧できますのでご利用ください。

災害対応マニュアルの作成は



山内 剛 議員

見直しを検討

議員 本町は、海、山もなく津波被害はないが、最近の集中豪雨による大刀洗川など河川決壊の危険があり、また、予測が難しい地震の発生が想定される。

各行政区・校区での避難訓練の実施と、指針となるマニュアル作成が必要ではないか。平成15年に町地域防災計画が作成されているが、見直す考えはないか。

町長 近年は地域防災力を高めるとともに、自助・共助・公助による災害に強い地域づくりが求められている。各校区、行政区、隣組単位で避難訓練を実施することは大変重要であり、その指針となる避難マニュアルも重要と考える。

副町長 東日本大震災を受け、国、県において防災計画の見直しが検討されており、当町においても検討したい。

来年以降の地域づくりは

議員 校区センターの運営並びに地域づくりについて、

①いま、4校区センターに管理指導員が配置されているが、この雇用は国の「ふるさと雇用再生特

別基金事業」を活用しており、今年度までで終了するが来年度以降に続ける考えは。

各校区において選任を

町長 社会福祉協議会に委託して指導員を配置することは考えていないが、

校区センターの利用促進及び地域づくりの観点から、各校区において適任者を雇用していただくのが望ましいと考える。
働きにより進めている大刀洗ランチは、今、どのような活動をしているか。また、来年の3月までの活動予定は。

議員 ②平成24年度に開始する校区センター運営助成金の使途内容は。また、どの位の規模でやるのか。
町長 町の中に埋もれた価値を見つけて、新しい視点で人と人、地域と地域との関係をつくり、発信していく活動を始めている。

町長 今年度は、管理運営助成金、清掃委託料、地域づくり助成金などを助成したが、来年度以降は、助成金や補助金などを一括して、地域づくりのための統合交付金とすることを検討している。
具体的な金額や使途については、今後各校区と協議させていただきたい。



水害対策は大丈夫か (大刀洗川)

議員 ③NPO法人「地域交流センター」との協

災害に強い町づくりを



平山賢治 議員



避難場所の強度は大丈夫か

うべきだ。原発からの期限を切った撤退も求めたい。

①大刀洗町の災害に対する現状はどうか。避難指定場所の耐震、備蓄、消防の体制は。

議員 東日本大震災では戦後の政治が進めてきた利潤第一主義の負の部分が噴出している。儲ければ何をやってもいいではなく、電力、通信、鉄道などの災害用インフラは国が責任を持つておこな

②大震災と原発に対して福岡県の対応の遅さが際立った。新しい福岡県知事は原発を推進する経済産業省出身、かつ選対本部長は九電会長だった。

これで原発を規制できるはずもない。町として、住民の命と健康を守る立場から

県に対して厳しくモノを言うべきでは。

③町として、新エネルギーや省エネへの移行は。

見直しも含め再考

町長 ①耐震は、小中学校は今年度で完了予定だが、中央公民館、南部コミュニティセンター、就業改善センターは耐震調査を検討したい。備蓄は20世帯の700人分に主に関外のキリン物流に保管している。

久留米広域消防の消防士は、現在366名で、国の示す基準に対して65%の人員数である。

②県は本年度に専門委員会を設置し、原子力災害を含めて防災計画の見直しをすると聞いている。

③庁舎において省電力化や緑のカーテンの推奨を進めている。

議員 いま地域づくりが進められているが、自主防災と災害弱者への対応を地域づくりの柱に据えてほしい。小中学校を災害対応の拠点とし、学校への備蓄倉庫や自家発電設置を進めてほしい。

町の非正規職員は

議員 役場の職員は、正規職員が92名に対して非正規が99名と、半分が不安定雇用である。

非正規の人は昇給も一時金もなく、有期雇用で厳しい立場におかれている。地方公務員法では本来恒常的な業務に非正規を雇用することは予定されておらず、法の谷間に置かれている。

恒常的な業務は正規職員を配置すること、非正規職員の待遇改善を求めるがどうか。

職務を精査して検討

町長 正規でなくてもできる仕事は非正規の方へと仕分けを進めている。報酬は職務の内容に対して支払う性質である。

報酬については、今年度は基本的に引き上げの方向で見直しをすすめた。効率的な行政を目指す立場で人事を行っている。

報酬審議会のありかたは



長野正明 議員

準に戻すということでの引き上げの答申がなされてきており、22年度は据え置きとしたが、23年度は原案通り可決をし引き上げとなった。

議員 町の報酬審議会は、議員の報酬、常勤の特別職の給与、教育長の給与について、町長の諮問に依りて審議し、意見を答申するものである。

報酬は行政改革の中で減額が続いてきたが、昨年度は平成16年当時の水

町民の方からも、報酬の引き上げについての質問や疑問の声があり、今回の答申が果たして民意に沿うものであるか考えさせられた。東日本大震災の復興の財源として国家公務員の給与を一律削減する状況の中で、来年



議会報告会でも議論に

度以降も引き上げの答申を求められるのか。

議会でも討議を

町長 報酬審議会は、人事院勧告の内容、県内類似団体の状況などの資料に基づき委員の討議を経て答申がなされている。審議会の委員は、住民の代表として出てもらっている

ので、ある程度、民意として解釈すべきと考える。また、東日本復興の財源の問題と、特別職及び教育長の給与、議員の報酬は切り離して考える必要があると思っている。報酬については、議会の中でも協議をしようのほうがいいのではないかと。

をふまえて議論すべきと考える。

職員互助会の支出は

議員 職員互助会への助成金が、互助会が加入している県の福祉協会の負担金として支出されている。この福祉協会は、会員の1/3が退職者である。間接的ではあるが公費が退職者も加入している福祉協会へ支出されている事はどう考えるか。

町長 退職者への給付は、退職者の会費と、現職職員の間で賄う仕組みになっており、公費が使われているという認識はない。

係長 以前は、経理区分が不明確で問題とされていたが、平成19年に県の指導をうけ見直しを行い、現職職員と退職者の会計をそれぞれで処理するように改善されている。

議会においても、この事

町長マニフェストは進んでいるか



山田英敏 議員

議員 町長のマニフェストの進捗状況を公表したが、判定区分に若干の疑問がある。

- ①町長選と町議選の同一日の実施が効果にとぼしいと判断して評価Dと位置づけられていたが、その後開票作業時間の短縮ができたとして評価Bに変更しているが、マニフェストの重みとして判定Dではないか。
- ②女性の意見と尊厳に関して。昨年と変化がないが、どのような対策をしているか。女性へのチャレンジ支援シングルマザー自立支援の相談会開催などの今後の予定は。
- ③公共施設の利用料金の見直しはC評価だが、今後の検討は。
- ④お年寄りを守る、介護予防に取り組むという講演があつたが、これに対してもワークショップなどの開催の予定は。
- ⑤農業の活性化。大刀洗産ブランド、農産物の知名度アップを図り、都市への販売ルートの確立の支援についての現状は。
- ⑥町民の知恵袋登録制度の導入についてはどうか。ワークショップは2月に開催予定だったが、広報に記載されていないが開かれていないのか。
- ⑦今年3月末に9人の職員が退職したがサーブに支障はないか。職員の配置換えで事務引き継ぎが不十分ではないか。

それぞれ取り組み中

町長 ①については、何度も申し上げているとおりのスピードで終了するなど改善を進めた。

②女性のチャレンジ支援は広報誌を通じて情報提供を行っている。今後とも具体的に必要とされているかを把握し、積極的な支援につなげたい。シングルマザー自立支援の相談会は社協で月2回開催されているが相談は数年前に1度だけだった。ニーズを把握するため、8月に実施の児童扶養手



広報に掲載された評価

⑦業務の知識が組織として共有されず個人頭の頭の中にあるという弊害がある。今年度コンサルタントも活用して、業務改善に取り組む計画をしている。目的は個人の頭の中にある知識を業務マニュアルとして作成、

当の現況届を利用して、アンケートを実施し、必要な相談会を検討したい。③公共料金は、当分現状どおりで行う。④今年度は認知症サポーター養成講座を開催し、広く啓発を進める。⑤農産物の知名度アップのため井上PAや大刀洗平和記念館等の駐車場でPR活動及び販売をしたが、なかなか効果に結びつかない。今年度についてはまず、人の集まる所でPR販売をしていき、あわせて町のPRも進めたいところである。⑥開催したが広報が遅れている。

引き継ぎが組織で共有できるような仕事のやり方をつくる。

議員 女性の意識調査や就労支援に関してはどのように計画しているのか。

副町長 今年度はマニフェストワークシヨップを開催していく計画であり、明確な時期等は未定だが検討している。

議員 女性のチャレンジ支援に関しては今後も町として支援をしていたきたい。農産物販売は直売所での販売もよいがトラック市、ネット販売、アンテナシヨップ等も検討してはと思う。

地域づくりをどう進める



花等順子 議員

議員 ②各校区の取り組みは

町長 大堰はホタルの里づくり、本郷は健康をテーマにウォーキングコースづくり、大刀洗は全世帯にアンケート調査をして住民意識や課題を整理し、地域づくりに役立てる。菊池はセンターの一部を整備して校区民が気軽に集える場所づくりをしている。

議員 ④「よかまちカフェ」が開かれているが、そこから見えてきたものは。

町長 町の特産品の再発掘と新しい特産品の開発をし、地域経済や雇用を生み出すことを目的にしている。

議員 ③津屋崎ブランチに町職員が派遣され、一

二ヶ月間の研修を受けているがその成果と他職員への影響は。

町長 津屋崎ブランチ(支店)が持っている人脈を活用し、知識を得た。まちづくりに必要なファシリテーション能力や情報発信技術の習得ができた。

議員 ⑤大刀洗ブランチ事業委託料1260万円の内訳は。

課長 スタッフ2名の人員費が684万円。スタッフの指導助言等の職員管理費が210万円。パソコンやイベント経費の直接経費が90万円。法人本部の間接経費が60万円。本庁職員の研修経費として(家賃等)94万円。その研修指導費60万円。消費税他で62万円である。

議員 ⑥大刀洗ブランチ職員の活動は。

町長 町の中に埋もれた価値を見つけ、新しい視点で関係をつくり発信していく。ブランチ職員が

地域とつながり、若者とよそ者の視点で大刀洗町の魅力を発見し、発信して住民同志を結び、町外の人とも結び合えることを期待している。

議員 ⑦24年度から導入予定の校区センター運営助成金のあり方と体制。

町長 地域づくりのための統合交付金を検討している。センターの体制づくりは、現在本郷校区で実施されているように、校区において適任者を選任していただくことが望ましいと考える。具体的な金額や体制については、議員や区長の方とも協議する。

※他に、平和宣言都市構想と人事評価のあり方を質問した。

町長 町の中に埋もれた価値を見つけ、新しい視点で関係をつくり発信していく。ブランチ職員が

ファシリテーション能力…

会議をうまく運営し、目標達成と問題解決を支援する能力。



本郷のウォーキングコース開き

町長 3月議会や地域懇談会(25行政区)で地域づくりの考え方を説明している。

地域づくりは住民自治組織を設置して、地域のごとは地域で責任と権限を持つて決定することが望ましい。行政はその組織づくりを支援する。

フォトニュース



消防団ポンプ操法大会【本郷が優勝】(7月3日)



分館対抗バレーボール大会(7月10日)

議会を傍聴しませんか

9月議会
9月2日(金)～7日(水)
一般質問は
9月3日(土)
(いずれも予定です)

どなたでも自由に傍聴
できます。

お問い合わせ
議会事務局 77-4112

町民の 声

第二の人生を 我がふるさとで

山隈 中島 誠さん



私は山隈で生まれ育ちました。これまでの歩みをふりかえってみます。戦後の混乱期、大刀洗小学校を昭和25年3月に

卒業しました。3年後、本郷村と大刀洗村とが一緒の郷洗中学校を卒業しました。同年に鳥栖工業高等学校に入部しました。思い出は全国高校駅伝に出場したことです。昭和31年4月、日本大学に進学してここでも陸

上競技部に入部しました。合宿所は約60名で監督も一緒に、厳しい管理生活でした。思い出は4年生の時、箱根駅伝のアンカーを走った事です。昭和35年、九電工に入社し、マラソン部で競技を続けることができました。昭和39年の東京オリンピックのマラソン強化選手に指名されました。そして平成7年、我が故郷の大刀洗町山隈に居住しました。平成9年に会社を定年退職して現役を終了しました。

これから第二の人生を、緑が豊かな自然に恵まれた大刀洗町でどう生きようかと考えています。○日本陸連の公認審判の資格を取得しているの

で、競技役員を続ける。○故郷の事を知りたいと思いい、わかば大学高齢者学級を受講した。色々

と意識が芽生え、感動を得る。○平成18年に発足した、子ども見守り隊のボランティア活動を続ける。○大刀洗町での地域活性化で色々な研修、講習等に少しでも参画するよう努めたい。自分の畑でも、少しの野菜作りも続けたい。

地域と関わりあいながら、健康管理をして、これからの人生をゆつくりと歩みたいと思っています。

編集 後記

私どもの任期も9月末までと迫り、現在の広報委員会での議会だよりの発行も今号が最後となりました。ご愛読に感謝申し上げます。と同時に、まだまだ腕が足りず、分かりやすい紙面にできなかったなど一同反省しています。

今後も、議会の活動を住民の皆さんに早く、正しく、分かりやすくお知らせできる議会だよりを目指してほしいと願っています。

また、東日本の一日も早い復興をお祈りしています。国政においても、地方においても、苦しんでいる人をきちんと救う政治であってほしい。

(平山)

- 議長 平山 賢治
- 副議長 長野 正明
- 委員 花野 順子
- 委員 古賀 正巳
- 委員 森 一雄
- 委員 平田 一成
- 議長 一雄